

平成30年度全国学力・学習状況調査 結果の概要

女川町立女川小学校

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準を維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施月日 平成30年4月17日(火)

3 対象学年 女川小学校第6学年児童34名 当日実施児童 33名 後日実施児童 1名

4 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査：国語，算数，理科
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5 本校と県・全国との比較

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
宮城県	同等の正答率であるが、わずかに下回っている。▼	同等の正答率であるが、わずかに下回っている。▼	同等の正答率である。	同等の正答率であるが、わずかに下回っている。▼	同等の正答率であるが、わずかに下回っている。▼
全国	やや下回っている。▼	やや下回っている。▼	同等の正答率であるが、やや下回っている。▼	やや下回っている。▼	やや下回っている。▼

○国語 A 国語 B は全国平均を下回った。算数 A は県、全国平均とほぼ同等、算数 B は全国平均より下回っている。理科は全国平均より下回った。

6 学力調査結果から

(1) 国語の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・A 問題の「読むこと」領域では、県・全国平均より上回った。登場人物や筆者の心情についてノートに書く時間を十分設けてきたことが実を結んでいる。

(課題)

- ・「話すこと・聞くこと」領域では、計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることが苦手である。
- ・「書くこと」領域では、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く力が不十分である。
- ・「読むこと」領域では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが、読むことに課題が見られる。しかし、登場人物の心情について情景描写を基に捉える問題は向上が見られた。
- ・「言語事項」では、学年別漢字配当表に示されている漢字を文章の中で正しく使う問題について

ては、ほとんどの問題が県・全国平均より下回っている。

②指導改善のポイント

- ・「話すこと・聞くこと」では、普段の話す聞く領域の授業を充実させることはもちろんのこと、普段の授業で話の要点を考えながら注意深く聞かせることが重要である。
- ・「書くこと」では、国語の学習だけではなく社会などの学習においても目的や意図に応じて文章を書く力を高めることが大切である。
- ・「読むこと」では、授業で文章のキーワードに着目しながら読ませたり、自分の考えを明確にしながら読ませたりする。また、読書量が増えるようにする。
- ・学年に応じて漢字練習を確実に行うとともに、漢字の小テストの回数を増やし、間違った問題は正しく訂正させることで習熟を図る。また、文章を書く時は、漢字で書ける言葉は漢字で書く習慣を確立する。

(2) 算数の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・各領域において課題があるものの、全体として全国平均との差を縮めることができた。授業改善や学力向上の取組が実を結んでいる。

(課題)

- ・A・B問題とも、無回答率が県・全国平均よりも多く、国語同様、あきらめずに課題に向かう姿勢を身に付けさせる必要がある。
- ・「数と計算」領域の、四則計算では、計算の決まりを理解していない児童が多い。また、数直線を正しく書ける児童が少ない。
- ・「量と測定」領域では、異種の2量の割合としてとらえられる数量の設問を苦手としている児童が多い。
- ・「図形」領域では、直径の長さや円周の関係や合同な三角形の性質の設問に課題がある。
- ・「数量関係」領域では、割合を苦手としている児童が多い。また、グラフから必要な情報を読み取り答えることも苦手としている。

②指導改善のポイント

- ・「数と計算」では、計算の仕方を身に付けさせるとともに、見積もりを行う習慣を身に付けさせる。また、授業で教師が一方的に数直線や線分図を提示するのではなく、児童と一緒に書き、児童が数直線や線分図を問題解決の手段として使えるようにする。
- ・「量と測定」では、図や数直線を使って考えられるようにする必要がある。
- ・「図形」では、性質やきまりを自らの言葉でまとめさせるなど、授業のまとめの仕方を工夫していく。
- ・「数量関係」では、日常の場面を問題に取り入れ、イメージを持たせて問題に取り組ませたり、必要感を持たせたりする。また、グラフの見方をしっかりと理解できるよう繰り返し指導する。

(3) 理科の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果と課題等

(成果)

- ・ほとんどの設問において、無回答率が低く、難しい問題にもあきらめずに問題に取り組んだこ

とが分かる。

- ・「人のからだとしくみ」では、全国平均を上回るなど、B区分「生命」についての理解は比較的にできていると言える。

(課題)

- ・主として「知識」に関する問題の正答率が低い傾向にあり、実験の結果を理科の用語を使って説明することや、実験器具の使い方の理解に課題が見られる。
- ・A区分「物質」の正答率が低く、実験方法や自然事象の知識について、理解が不十分な児童が見られる。
- ・調べた結果に対して考察したり、まとめたりする設問で正答率が低くなっており、実験で導き出された結果を分析することに課題がある児童が多い。

②指導改善のポイント

- ・自然事象についての知識・理解に課題が見られることから、観察や実験等を通して分かったことをノートにまとめるとともに、練習問題等を通して知識の定着を図る。
- ・問題の提示の仕方を工夫し、児童が自分たちで課題を設定し、解決するための見通しを持てるような授業づくりを心掛ける。
- ・教科者に記載されている実験を取り上げる際は、児童になぜこのような実験を行うかを話し合わせ、実験方法を考えさせることが必要である。
- ・実験の際は、できるだけ多くの児童に実験機器の操作をさせ、技能の習熟を図る。

7 生活習慣や学習環境に関する調査から

<生活習慣・意識調査について>

- 人の役に立ちたいと思っている児童がほとんどである。
- いじめに対して、いけないことと思っている児童がほとんどである。
- 起床、就寝について、規則正しい生活習慣が身に付いている児童の割合が県・全国と同程度に改善された。
- ▲難しい問題にあきらめずに挑戦する気持ちが、県・全国よりも低い。
- ▲将来の夢や目標を持っている児童が、県・全国よりも低い。

<学力向上を促進する要因について>

- 平日の家庭学習の時間は県・全国と比較すると長い。
- 平日の読書時間は、県・全国と比較すると長い。
- ▲家庭で、予習・復習を全く行わない児童が県・全国よりも多い。

<授業に関する調査について>

- ▲算数の学習について、意欲的ではない児童が県・全国と比較すると多い。
- ▲算数の学習を生活の中で活用しようとする児童が県・全国と比較すると少ない。
- ▲簡単に解く方法を考えたり、公式の理由を考えたりする児童が県・全国と比較すると少ない。

8 今後の取組

(1) 「基礎的・基本的な知識・技能」の確実な定着を図る授業等の改善

- ① 児童にとって「わかる・できる・楽しい」授業づくり
 - ・宮城県教育委員会から示されている「5つの提言」を取り入れることにより、「自己有用感の形成」や「教科指導の充実」、「家庭学習の習慣化」を図る。
 - ・宮城県教育委員会から示されている「算数・数学ステップアップ5」を取り入れ、より効果的

な学習を行うために、意欲を持てる課題の提示方法や学びが深まる自力解決、集団解決の方法について校内で研究、実践していく。

- ・デジタル教科書や実物投影機を活用し、拡大して課題や資料を提示することで視覚的に分かりやすい授業を行う。また、タブレットを活用し、児童の意見を集約したり、アプリを通して児童個々の習熟の時間を効果的に展開したりする。

② 個に応じた習熟度別学習の充実

- ・放課後に「今日の一問」を設定し、支援を必要とする児童の学習支援を行い、学習内容を確実に習得させる。
- ・全校で月に2回程度、通常の算数の授業に加え、「算数習熟タイム」として算数の授業を設定し、学年を数熟度別に分け、実態に応じて、基礎問題から発展問題に取り組みさせる。

③ 「女川スタンダード」をもとにした学習規律の徹底

- ・女川スタンダードをもとに、継続的な指導を通して、基本的な学習習慣の定着を図る。

④ 漢字検定、算数検定の積極的な活用

- ・漢字検定や算数検定を、児童の学力を定着させる取組に位置付け、積極的に活用していく。

(2) 「活用する力」の育成を図る授業の充実

① 思考力を高めるための「書く活動」の充実

- ・児童の思考力を高めるため、どの教科においても自分の考えを書く活動を積極的に取り入れる。また、自分の考えを表現する力の素地を養うため、日記・作文を継続的に書かせる。さらに、読書を推奨し、語彙力、表現力を育てていく。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した単元構成の工夫

- ・単元を構成する際に、単元全体を通して、「主体的・対話的で深い学び」を達成できるように、指導計画を工夫する。

(3) 家庭学習習慣の定着

① 基本的な生活習慣の確立と学習時間の確保

- ・「はやね はやおき 朝ごはん」を合い言葉として、家庭への啓発を継続し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・生活習慣チェックシートを活用し生活習慣の改善を図る。また、児童会が主体となり、スマホやゲーム等の使い方のきまり「うみねこルール」を守らせ、家庭にも協力を呼びかける。

② 授業と連動させた課題の工夫

- ・授業の学習内容の理解度を高めるために、家庭学習の課題を「予習型」「復習型」「発展・補充型」の3つのタイプに分け内容を工夫する。

(4) 女川中学校、女川向学館、地域との連携強化

① 中学校との連携

- ・小中学校の教員が各校の授業参観を通して、「指導（授業）内容」「（学年・年齢・教科の特性に応じた）指導の工夫」等について学び合う。

② 女川向学館との連携

- ・女川向学館と連携し、担当学年の担任同士で児童の実態を情報交換し、指導に生かす。

③ 地域の人財（じんざい）活用

- ・生涯学習課で作成した「女川小学校版人材バンク」や「出前授業」を活用することにより、地域の教育力を生かす。